

【9】 家庭 の学習について

1 必修科目・自由選択科目について

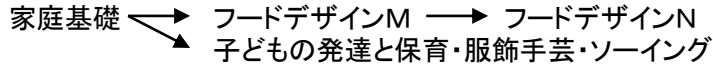
必修科目は、「家庭基礎」です。

自由選択科目は、「子どもの発達と保育」、「服飾手芸」、「フードデザインM」、「フードデザインN」、「ソーイング」です。

2 履修上の注意点

午前部・午後部・夜間部とも「家庭基礎」を履修してください。

3 家庭の各科目の履修順序



「フードデザインM・N」の同時履修は原則認めない。

「服飾手芸」と「ソーイング」は別の年次で履修することが望ましい。

4 履修モデル（○必修 ●選択必修 ・自由選択）

	希望進路	1年次	2年次	3・4年次
進学	保育士	○家庭基礎	・子どもの発達と保育 ・ソーイングまたは・服飾手芸もとっておくと役立つ	
	調理・栄養	○家庭基礎	・フードデザイン M・N	
	服飾	○家庭基礎	・ソーイングまたは・服飾手芸	
就職	調理関係	○家庭基礎	・フードデザイン M・N	
	服飾関係	○家庭基礎	・ソーイングまたは・服飾手芸	

※「ソーイング」と「服飾手芸」をとる場合には、同じ年度に2つ履修するより、2年に分けて履修した方がよい。また、技術検定3級まで受検したい場合は、「ソーイング」を履修する方が望ましい。

5 家庭の教科目標、履修について

(1) 教科目標

人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会の関わりについて理解するとともに、生活に必要な知識と技術を習得し、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を身につける。

(2) 評価観点及びその趣旨、方法

ア 観点及び趣旨

関心・意欲・態度	家庭や地域の生活について関心をもち、その充実向上を目指して思考を深め、適切に判断し工夫し創造する能力を身に付けている。
思考・判断・表現	家庭や地域の生活について課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し工夫し創造する能力を身に付けている。
技能	家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。
知識・理解	家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な知識を身に付けている。

イ 評価の方法

項目	達成評価	活動評価
観点		
関心・意欲・態度	実技	出席 教師の観察 検定への取組 自己評価
思考・判断・表現	考查 実技 作品	ワークシート 宿題 作品
観察・実験の技能	実技 作品	ワークシート 基礎技術 課題プリント
知識・理解	考查 作品	ワークシート 小テスト

(3) 実技・実習等

作品製作や調理実習に必要な材料の費用が必要です。

(4) 留意事項

- ・ 専門科目(家庭基礎以外の科目)は、講座定員 20 名。
- ・ 「子どもの発達と保育」は、女子を優先(要担任との相談)。
- ・ 各科目実習費がかかるので、同じ年次に履修を集中させないこと。
- ・ 原則的な履修の順序を考慮して履修すること。
- ・ 調理実習は、少人数のグループ実習になるので留意すること。
- ・ 「ソーイング」「服飾手芸」は、細かい作業を含む被服実習なので留意すること。

教科 家 庭

科 目 名		家庭基礎	単位数	2	履修区分	必履修科目
対象の部		午前 午後 夜間	使用教科書		新 図説 家庭基礎 （実教出版）	
			使用教材			
履修の条件		特になし	教材費等		①調理実習費約 600 円 ②被服実習材料費約 900 円	
特 色	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得し、家庭生活の充実を図る能力と実践的な態度を育てます。					
主 な 学 習 内 容	① 人の一生と家族・家庭及び福祉 ・ 青年期の自立と家族・家庭 ・ 子どもの発達と保育 ・ 高齢期の生活 ② 生活の自立及び消費と環境 ・ 食事と健康 ・ 被服管理と着装 ・ 住居と住環境 ③ ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動 ・ 消費生活と生涯を見通した経済の計画 ・ ライフスタイルと環境 ・ 生涯の生活設計					
備 考	① 調理実験・実習など小グループでの実習があります。 ② 被服製作実習があります。					

科 目 名		子どもの発達と保育		単位数	2	履修区分	自由選択科目
対象の部		午前 午後 夜間		使用教科書		子どもの発達と保育 新訂版（実教出版）	
				使用教材			
履修の条件		「家庭基礎」を先に履修 していること。		教材費等		保育・調理・被服実習材料費 約2000円	
特 色	子どもの発達の特性や発達過程、保育などに関する知識と技術を習得し、子どもの発達や子育て支援に寄与する能力と態度を育てます。						
主 な 学 習 内 容	① 子どもの発達と特性 ・生涯発達における乳幼児期の意義 ・発達と環境 ② 子どもの発達過程 ・身体発育と運動機能の発達 ・認知機能の発達 ・情緒機能の発達 ・人間関係の発達 ③ 子どもの生活 ・乳幼児の生活の特徴と養護 ・生活習慣の形成 ・乳幼児の健康管理と事故防止 ④ 子どもの保育 ⑤ 子どもの福祉と子育て支援						
備 考	① 折り紙等による作品や壁面製作があります。 ② 乳幼児に関する調理実習や、被服製作実習があります。						

教科 家 庭

科 目 名		服飾手芸	単位数	2	履修区分	自由選択科目
対象の部		午前 午後 夜間	使用教科書	さいほうの基本 （株式会社 KADOKAWA）		
			使用教材	手芸の材料 本校作成テキスト		
履修の条件		「家庭基礎」を先に履修していること。	教材費等	手芸品の製作材料費 約3000円		
特 色	手芸の種類、特徴及び変遷、各種手芸の技法などに関する知識と技術を習得し、手芸品を創造的に製作することによって、服飾に活用する能力と態度を育てます。					
主 な 学 習 内 容	① 手芸の種類と変遷 ・手芸の技法や特徴の理解 ② 服飾材料としての各種手芸の技法 ・基礎的技法の習得 パッチワーク、刺し子、刺しゅう、 編み物、染色、織物およびその他の 手芸より選択 ③ 手芸品の製作 ・実際に作品を製作する					
備 考	手芸品の製作の実習を中心とした授業になります。					

科 目 名		フードデザイン M		単位数	2	履修区分	自由選択科目
対象の部		午前 午後 夜間		使用教科書		フードデザイン 新訂版 (実教出版)	
				使用教材			
履修の条件		「家庭基礎」を先に履修していること。		教材費等		調理実習材料費 約3000円	
特 色	栄養、食品、献立、調理などに関する知識と技術を習得し、食生活を総合的にデザインする能力と態度を育てます。						
主 な 学 習 内 容	① 健康と食生活 - 食を取り巻く現状 - 食事の意義と役割 ② フードデザインの構成要素 - 栄養 - 調理（基礎） ③ フードデザイン実習 - 食事テーマの設定と献立作成（基礎） - 食品の選択と調理 ④ 調理実習（基本）						
備 考	① 調理実習では、少人数のグループでの実習になります。 ② エプロン、三角巾を各自で準備してください。						

教科 家庭

科 目 名		フーズデザインN		単位数	2	履修区分	自由選択科目
対象の部		午前 午後 夜間		使用教科書		フーズデザイン 新訂版 (実教出版)	
				使用教材			
履修の条件		①「家庭基礎」を先に履修していること。 ②「フーズデザインM」を履修していること。		教材費等		調理実習材料費 約3000円	
特 色		栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を習得し、食生活を総合的にデザインするとともに食育の推進に寄与する能力と態度を育てます。					
主 な 学 習 内 容		① フーズデザインの構成要素 ・食品（応用） ・料理形式の献立 ・調理（応用） ・テーブルコーディネートとサービスの実習 ② フーズデザイン実習 ・食事テーマの設定と献立（応用） ・食品の選択と調理（応用） ③ 食育と食育推進活動 ・食育の意義 ・家庭や地域における食育推進活動					
備 考		① 調理実習では、少人数のグループでの実習になります。 ② エプロン、三角巾を各自で準備してください。					

科 目 名		ソーイング	単位数	2	履修区分	自由選択科目
対象の部		午前 午後 夜間	使用教科書		さいほうの基本 （株式会社 KADOKAWA）	
			使用教材		被服製作の材料 本校作成テキスト	
履修の条件		「家庭基礎」を先に履修していること。	教材費等		被服製作材料費 約3000円	
特 色	被服構成について、それぞれの製作に関する理論と技術をふまえ、計画に従って能率的に製作することができる能力と実践的な態度を育てます。					
主 な 学 習 内 容	① 被服構成の基礎 ・被服の成り立ち ・基礎技術の習得 ② 被服の製作 ・被服の種類と特徴 ・デザインと材料の選定 ・パターンメイキング ・裁断 ・仮縫い、補正 ・縫製 ・仕上げ					
備 考	被服製作の実習を中心とした授業となります。					